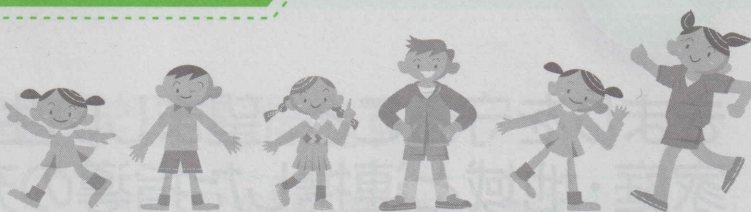


かながわの



学び

づくりプラン

2009

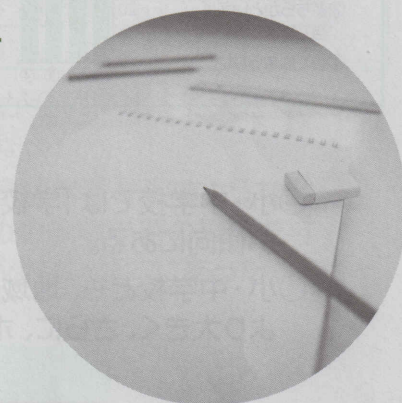
～学校・家庭・地域で育てよう子どもたち～

平成20年度全国学力・学習状況調査結果の分析

平成20年度の全国学力・学習状況調査の結果の分析にあたっては、児童生徒質問紙、学校質問紙に焦点を当て、次の2点について分析を行いました。

- ①平成19年度に全国と比較して神奈川県の特徴的であった傾向に焦点を当て、平成20年度の傾向との比較分析を行い、今後の改善すべき点を分析する。
- ②上記の傾向について、平成20年度に新規に質問された内容を加味して分析・考察し、神奈川県における今後の改善すべき点を明らかにする。

その結果、今後の改善点として次の4点が挙げられました。



1. きまりを守ること、望ましい生活習慣等について、家庭・地域と連携した指導の充実を図る

- きまりを守ること等の指導の充実を図る
- 望ましい生活習慣を身に付けることの大切さについて指導の充実を図る
- 地域と連携した指導のさらなる充実を図る

2. 家庭と連携して個に応じた家庭学習を推進する

家庭学習の計画の立て方に焦点を当てた指導等を行うとともに、計画が実行されたかどうか、つまずきがあるかどうかなど保護者と連携しながら個に応じた家庭学習を推進する

3. 教員同士の学び合いに焦点を当てた研修の充実を図る

指導内容、指導方法の研究に止まらず、校内研究の効果的な進め方についても議論する

4. 支援教育の推進と充実を図る

教育的ニーズのある児童・生徒への適切な対応による、支援教育の一層の推進と充実を図る



かながわ学力向上シンポジウム

今年度は、平成21年1月16日(金)に県立総合教育センターを会場に、約370名の参加者のもと開催されました。当日は、横浜国立大学池田准教授から平成20年度全国学力・学習状況調査の分析結果について報告を基にした基調提案がありました。

続いて、学校、教育委員会、PTA協議会からの提案・報告がありました。

学校の取組として、海老名市立杉本小学校から、自ら学ぶ力を育てるために、授業と家庭学習をつなぐための学習予定表「グリーンカード」の実践について、教育委員会の取組として、中井町教育委員会から、かながわ学びづくり研究委託事業の成果について、PTA協議会の取組として、各地区のアンケート等を基に家庭の果たす役割について、それぞれの立場から、貴重な提案と報告がありました。

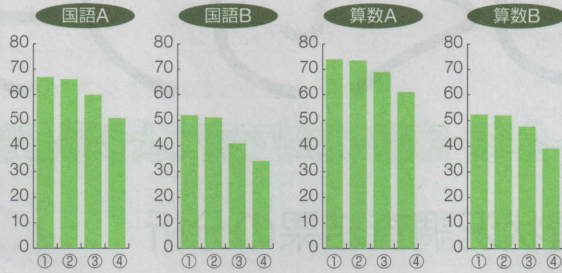
次頁から、その概要を紹介します。

きまりを守ること、望ましい生活習慣等について、 家庭・地域と連携した指導の充実を図る

○学校のきまりを守っている児童の方が、
正答率の高い傾向が見られる。平成20年度

全国
小学校

- ①当てはまる
- ②どちらかといえば当てはまる
- ③どちらかといえば当てはまらない
- ④当てはまらない



○ボランティア等による授業サポート 平成20年度

小学校					中学校				
選択肢	1	2	3	4	1	2	3	4	
神奈川県 (%)	20.5	40.6	27.8	11.0	8.8	19.8	25.5	46.0	
全国 (%)	10.2	25.6	31.5	32.7	4.9	13.2	27.2	54.5	

PTAや地域の人による学校の諸活動のボランティア

小学校					中学校				
選択肢	1	2	3	4	1	2	3	4	
神奈川県 (%)	50.7	45.2	3.9	0.0	53.1	42.6	4.0	0.2	
全国 (%)	50.5	45.3	4.0	0.1	44.0	49.0	6.1	0.8	

神奈川県では、ボランティア活動を積極的に推し進めている傾向にある
※全ページの表中の数値は公立の結果
①よく行った ②どちらかといえば行った ③あまり行っていない ④全く行っていない

- 小・中学校では「学校のきまりを守っている」と思っている児童・生徒の方が学力調査の結果が高い傾向にある。
- 小・中学校とも、地域の人が自由に授業参観できる学校公開日を設定している学校の割合が全国より大きく、さらに、ボランティア等による授業サポートを全国より積極的に行っている。

「先生や友達が話しているときは、しっかりと聞く」といった基本的な習慣を身に付けることや、きまりや規則を守ることの大切さをしっかりと指導する。

「当たり前」をどこに設定するかで、子どもたちの学校生活が変わる!

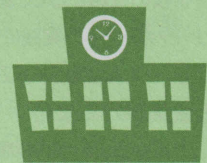
保護者・PTAとの連携

地域の人が自由に授業参観できる学校公開日、ボランティア等による授業サポート(補助)等を積極的に活用して、きまりを守ること、望ましい生活習慣等の指導へと繋げていくこと。

PTA活動と家庭の役割

当日、県PTA協議会からPTA広報誌のアンケート等の結果を基に、保護者の立場から、報告がありました。

- 「家庭の役割」について
1番目は基本的な生活習慣を身に付けさせること、2番目は家族との会話をすること、3番目は家庭での役割(仕事分担)をもたせること、4番目は個性と自分勝手の違いをしっかりと教えること
- 「学習面での取組」(家庭学習について思うこと)について
やらなければいけないこととやりたいことの区別を教えるには、必ずやらなければいけない宿題があったほうがいい。
- 「学校と家庭との連携」について
多くの保護者が、学校での出来事や友達・クラスの状態をもっと知りたいと思っている。クラスでの懇談会、教科担任の先生との懇談(中学校)の機会をできるだけ設定してほしい。
- 「相互理解」について
保護者が学校に行く意味としては、「学校支援」と「学校を知る」ことの二つがあると考える。



家庭と連携して個に応じた家庭学習を推進する

○家庭学習への教師の働きかけ 平成20年度【国語】

new 保護者に対する児童の家庭学習を促すような働きかけ

小学校					中学校				
選択肢	1	2	3	4	1	2	3	4	
神奈川県 (%)	27.1	59.2	13.5	0.1	10.0	47.4	37.1	5.2	
全国 (%)	38.0	52.6	9.2	0.1	17.3	49.3	28.6	4.6	

new 家庭学習の継続的な実施や習慣付けを図るための家庭学習の課題を与えていたか

小学校					中学校				
選択肢	1	2	3	4	1	2	3	4	
神奈川県 (%)	46.6	47.6	5.3	0.3	23.1	52.9	21.2	2.9	
全国 (%)	63.9	34.0	1.8	0.1	39.8	45.7	12.4	2.0	

①よく行った ②どちらかといえば行った ③あまり行っていない ④よく行っていない

○家庭学習への教師の働きかけ 平成20年度【算数・数学】

new 保護者に対する児童の家庭学習を促すような働きかけ

小学校					中学校				
選択肢	1	2	3	4	1	2	3	4	
神奈川県 (%)	25.8	59.6	14.3	0.1	12.4	46.7	36.0	5.0	
全国 (%)	39.4	51.0	9.3	0.2	17.3	49.6	28.9	4.0	

new 家庭学習の継続的な実施や習慣付けを図るための家庭学習の課題を与えていたか

小学校					中学校				
選択肢	1	2	3	4	1	2	3	4	
神奈川県 (%)	45.9	47.6	6.0	0.3	25.7	55.7	17.4	1.2	
全国 (%)	65.8	32.2	1.8	0.2	42.1	45.8	10.8	1.1	

- 家庭での勉強時間は、小学校では「4時間以上」と「全くしない」の割合が全国に比べて大きく、中学校では、「全くしない」生徒の割合が全国に比べて大きい傾向にある。
- 平成20年度新規の学校質問項目である「保護者に対する児童・生徒の家庭学習を促すような働きかけを行っているか」「家庭学習の継続的な実施や習慣付けを図るための家庭学習の課題を与えているか」については、全国に比べて「よく行った」と回答した学校数が少ない傾向にあった。

個に応じた家庭学習の支援

○小・中学校で

学校

協力

家庭

家庭での学習計画の立て方に焦点を当てた指導
児童・生徒の学習計画、つまずき等の評価

海老名市立杉本小 グリーンカード

1週間分の家庭学習を各自計画し、週1回提出。教師がそれを支援する。

なりたい
自分
具体案

今後は、学校で家庭学習計画の立て方に焦点を当てた指導等を行っていくこと、並びに、児童・生徒の計画が実行されたかどうか、児童・生徒のつまずきに対してどのような手立てが必要であるか等を保護者と協力して評価していくことが大切である。今後、個に応じて家庭学習が進められるような方策を検討していく必要がある。

家庭学習の充実に向けての学校の取組

海老名市立杉本小学校から、自ら学ぶ力を育てるために、授業と家庭学習をつなぐための学習予定表「グリーンカード」の実践の報告がありました。

- 「グリーンカード」とは、自学自習する習慣を付けることを目標に、自分で1週間分の計画を立て、実践した結果を報告し、計画や取組について教師がコメント等で指導する。
- 取り組む内容は、学校の学習以外に、自分の興味関心のあることを深めたり、さらには自分が苦手なものを克服していくことです。
- 成果として、自ら課題を発見しようとしたり、学習を計画、継続したりする力が付いた。
- 課題として、個人差への対応と、今後、自学自習の力をどのように育てていくか。

教員同士の学び合いに焦点を当てた研修の充実を図る

○教職員の取組 平成20年度

new 学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教育職員の間で共有し、取り組みにあっていますか。

小学校					中学校				
選択肢	1	2	3	4	1	2	3	4	
神奈川県 (%)	48.1	49.5	2.3	0.0	39.8	55.5	4.8	0.0	
全国 (%)	50.9	47.1	1.9	0.0	42.0	54.7	3.1	0.0	

new 指導計画の作成にあたっては、教職員同士が協力していますか。

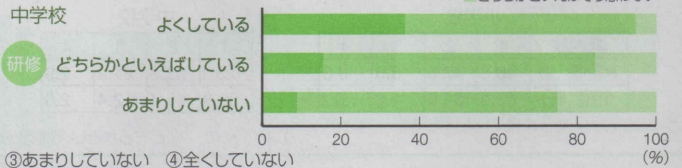
小学校					中学校				
選択肢	1	2	3	4	1	2	3	4	
神奈川県 (%)	48.9	48.0	3.0	0.0	32.9	64.5	2.6	0.0	
全国 (%)	45.6	50.5	3.8	0.0	31.5	59.4	8.7	0.2	

new 教職員は校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか。

中学校				
選択肢	1	2	3	4
神奈川県 (%)	17.9	67.6	14.5	0.0
全国 (%)	18.3	68.3	13.2	0.0

○学習態度との相関 平成20年度 (全国)

児童・生徒は熱意をもって勉強していると思いませんか。



①よくしている ②どちらかといえばしている ③あまりしていない ④全くしていない

- 研究会や研究会の成果を教育活動に積極的に反映させている教師の方が、児童・生徒が熱意をもって勉強していると思っている傾向にある。
- 特に中学校においては、「指導計画の作成にあたっては、教職員同士が協力している」について、全国より積極的に行っている傾向にある。

教科を超えた授業研究会：アイデアを共有する

●授業記録をとる担当の先生を決めておく。討論会の時に配る。

●授業後の討論会では、グループで意見交換した後で、全員で討論。

●感想を付箋に書き、討論会の前にまとめたり、それを基に議論
中井町

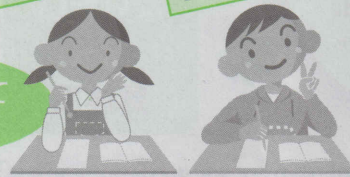
付箋の色を使い分ける

①教師の活動
②子どもの活動

①テーマ
②その他

①よい点
②課題

授業の時系列に従って貼り付け議論



かながわ学びづくり推進地域の取組

平成20年度 かながわ学びづくり推進地域として研究に取り組んだ中井町教育委員会から、その取組の報告がありました。

○中井町では「達人教師と学び続ける子どもたちを目指して」というテーマで、教師の指導力の向上と、子どもたちの学力の向上を目指して、町内3校(小学校2、中学校1)での連携研究会に取組み、授業研究後の研究協議会の持ち方を工夫し、協議の深まりを図った。

□の字型協議 → 小グループ協議 → 付箋紙協議 → 書き込み協議 → 壁協議

○その結果、教師同士のコミュニケーションも深まり、協議内容の質も高まってきた。今後は、授業のねらいに迫るための事前研究と、特に教材研究の工夫の必要性が明らかになった。

○子どもの学びの連続性の観点から、今後の研究課題の一つとして子どもの学習の習慣化について授業との関連の中で考えていくこと、そして継続的に研究をしていくことが必要である。

文部科学省委嘱事業
平成21年度学力向上実践研究推進事業

かながわの

2010

学びづくりプラン

～個に応じた学びづくりを～

学校・家庭・地域で育てよう子どもたち

神奈川県教育委員会では、全国学力・学習状況調査や県学習状況調査の結果を分析し、本県の子どもたちの確かな学力をはぐくむための取組を進めています。

これまで検証改善委員会や学力向上支援連絡協議会から出された提言に加え、今年度県内6地域(三浦市・大和市・平塚市・中井町・箱根町・清川村)で実施された「かながわ学びづくり推進地域事業」の研究成果等を基に、これからの「かながわの学びづくり」について考えました。

学校では

- 児童・生徒理解に努め、子ども一人ひとりが安心して学べる環境づくりを進めましょう。
- 「わかる授業」・「学び合いを中心とした授業」づくりに努め、子ども一人ひとりが「学ぶ喜び」・「学ぶ楽しさ」を実感できるようにしましょう。
- 授業研究会を工夫し、学校全体で研究・研修の充実を目指し、授業改善を図りましょう。
- 校種を超えて教職員が交流し、発達の段階を踏まえた系統的な指導計画の作成に努めましょう。
- 関係機関とも連携を図りながら、さまざまな課題を抱えた子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導に努めましょう。
- 子ども一人ひとりの家庭学習を支援し、意欲的に学習する子どもたちを育てるために、学校での学習状況を家庭と共有しましょう。

家庭では

- 「早寝・早起き・朝ごはん」やあいさつなど、望ましい生活習慣を付けましょう。
- きまりを守ることや、人と人とのつながりの大切さを一緒に考えましょう。
- 学校と協力しながら、子どもの家庭学習の習慣化を進めましょう。

地域では

- 登下校や学校公開日等、いろいろな機会を通して子どもたちの成長を見守りましょう。
- 学習支援や本の読み聞かせ等、いろいろな立場から、子どもたちの学びを支援しましょう。



1 子どもたちの現状を把握しましょう！

★平成21年度全国学力・学習状況調査から

— 個に応じた学習支援の充実が必要です —

■ 教科に関する調査から

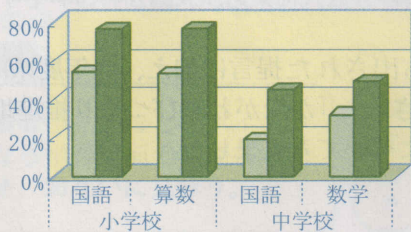
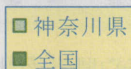
小学校では：漢字の書き取りや基礎的な計算問題など、知識に関する問題に課題があります。

中学校では：漢字の書き取りや対称な図形、反比例の問題など、知識に関する問題に課題があります。

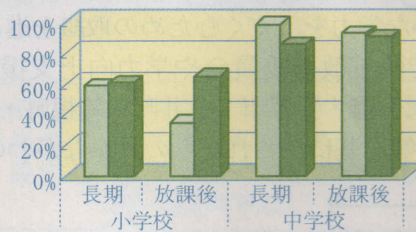
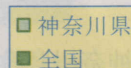
■ 学校質問紙から

神奈川県の小・中学校は全国に比べて宿題をよく出す学校が少ない傾向にあります。また、補充的な学習サポートについては、小学校で平日の放課後に行っている割合が、全国平均と比べても低い割合になっており、一層の充実が必要です。

「家庭学習の課題(宿題)をよく出す」と回答した学校の割合



長期休業中及び放課後に補充的な学習サポートを行った学校の割合



★平成21年度神奈川県公立小・中学校学習状況調査から

— 読み取る力・問題を解決する力を付けることが必要です —

■ 教科調査から

小3では：「文意を捉え、見通しを立て、順序立てて考える力」に課題があります。

小5では：「資料を読み取り情報を適切に処理して問題を解決する力」に課題があります。

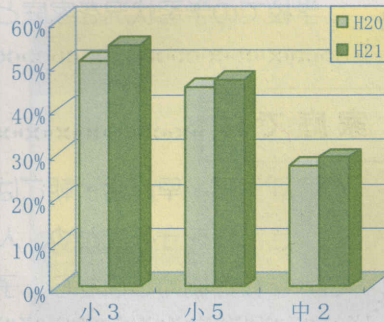
中2では：「文章や資料から読み取った内容を基に考察し、分かりやすく組み立てたり説明したりする力」に課題があります。

■ 意識調査から

「自分の意見を発表することは好きか」という質問では、学習内容の難易度が比較的低い小3でも、「好き」な傾向を示した児童は5割程度です。

また、学年が上がるにつれ意見発表することが「好き」という傾向を示す児童・生徒の割合が減少しており、今後は、言語活動等をより充実させる必要があります。

「自分の意見を発表することは好きか」という質問で「好き」な傾向の割合



★調査結果から小・中学校に求められること

- 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させることが求められます。
- 言語活動等を充実させ「読み取り考察し発信する力」をはぐむことが求められます。

2 授業改善を進めましょう！

— 学び合いを中心とした授業の展開を！ —

○ 授業の一部として行う具体的な展開例

学び合いとその意図

ここはどうなるの？

わからないことを、
友達に聞いてみようとする行為が容易にできる

何がしたいの
だろう？

友達の説明をよむ
立場におかれる

本当なの？でも、……

友達の説明を評価する
立場におかれる

疑問
補足
修正



それはねえ、……

友達に説明しなければ
ならない立場におかれる

そうか、そうだと
すると……

自分の説明を振り返ったり、
相手の気持ちを理解しなければ
ならない立場におかれる

学び合いにおける教師の役割

子どもが共有するものは何か？

教師の補足説明

2人だけの世界

〇〇さんは、こういうことを
いっているんだね。

え、どういうこと？
でも、ここはどうなの？

何いいたいのか、わかった？

誰か助けてくれる人？

どう考えたかよめるかな？

あれ、ここはどうなるんだろう？

子ども同士の考えを
つなぐ発問。
共有することは、
友達の説明の理解と
評価（疑問、補足、修正）

(資料提供：かながわ学力向上支援連絡協議会委員長 横浜国立大学教育人間科学部 池田敏和教授)

○ 全員が言語活動を行う授業展開例

- ① 一人ひとりが、自分の考えをノートにメモする。
- ② メモを基に少人数のグループで話し合う。
(ペア学習から4人程度のグループへの展開も効果的です。)
- ③ 全員が一斉に席を離れて、各グループで話し合ったことを他のグループの人に伝える。
- ④ 一人ひとりが、他の人から聞いた意見を参考にして、自分の考えをノートにまとめる。

■ 新しい学習指導要領では、すべての教科等で言語活動の充実が示されています。各教科等のねらいを達成するための言語活動を工夫しましょう。

— 発達段階を踏まえた校種間の円滑な接続を！ —

- 「小1プロブレム」や「中1ギャップ」といわれるように、子どもたちは、新しい生活に移行するとき、不安や戸惑いを感じます。幼稚園等から小学校、中学校へのスムーズな接続が大切です。
- 学校は、子どもの発達段階に応じた学習環境の整備や学習活動の工夫を図る必要があります。
- そのためには、互いの教育活動を見合うことなどを通して、子どもの様子、学習環境、指導法の違いや共通点などを確認しましょう。

確かな学力の育成のために

— 指導の工夫・改善 —

- 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得
- 思考力・判断力・表現力等の育成
- 主体的に学習に取り組む態度を養う
- 豊かな心や健やかな身体の育成

- ・言語活動の充実
- ・主体的な学習習慣の確立
- ・道徳教育の充実
- ・基本的な生活習慣の確立

3 授業研究会のもち方を工夫しましょう！

○ 授業研究会を活性化 ～中井町における授業研究会の変遷～

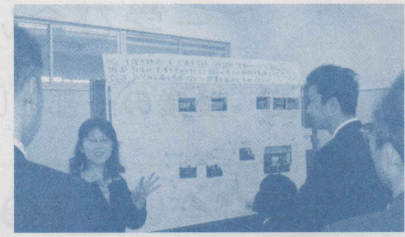
口の字型協議 → 小グループ協議 ↺

↻ 付箋紙協議 → 書き込み協議 → 壁協議

模造紙に色分けした付箋紙を貼り、全員の意見を反映します。

授業の流れに沿って、出た意見等を書き込みます。

模造紙の周りに集まり、協議を深めます。



<壁協議>

○ 学習指導案づくりの工夫 ～三浦市における小中合同学習指導案づくりの取組～

校種を超えた学習指導案づくりでは、学校相互の理解を深め、子どもたちが系統的に学んでいく道筋をつかむことができます。

○ 教師同士の学び合い ～その他の地域における取組～

写真や時系列の授業記録をとり、授業後の研究会に提示することで、授業の場面が想起しやすくなります。

教科や学年の枠を超えた授業研究会をもつことで、指導方法のアイデアを共有することができます。

<工夫例>

授業者が見てほしいポイントになる学習場面の時間帯を知らせ、お互いに見合う。

研究授業日を定期的を設定したり、曜日を決めて授業を見合う日を設定したりする。

授業研究会で児童・生徒から直接授業についての感想を聞いたり、保護者も参加したりする。

4 家庭・地域へ発信しましょう！

家庭との連携を！

自ら学ぶ意欲を高めるためには…

- 学校での一人ひとりの学習状況を、積極的に伝えましょう。
- 家庭学習の習慣を付ける働きかけをしましょう。
 - * 1週間の家庭学習の計画を一緒に立てる。
 - * 家庭学習の約束を確認する。(場所・時間など)
- 家庭での望ましい生活習慣について共通理解を図りましょう。

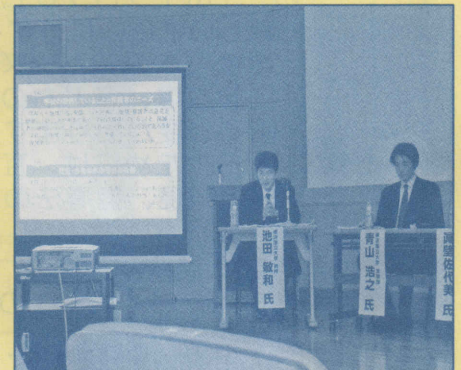
地域との連携を！

地域社会の中で育てるためには…

- 教職員も進んで地域の方々にあいさつをしましょう。
 - * 「あいさつ運動」「見守り隊」など
- 学校や地域の行事を互いに情報交換しましょう。
 - * 「運動会」「学習発表会」「地域清掃」など
- 学校のボランティア活動をPRし、参加していただきましょう。
 - * 「学習ボランティア」「図書館ボランティア」など

かながわ学力向上シンポジウム

学力向上に取り組んでいる三浦市・清川村・茅ヶ崎市立鶴が台中学校が事例発表を行いました。また、大学・PTA・教育委員会・中学校・小学校の代表をパネリストに、会場の参加者も交えて、学力向上に向けた学校と家庭・地域の役割について話し合いました。



平成22年3月8日(月)
自治総合研究センター研修ホールにて
共催：かながわ学力向上支援連絡協議会

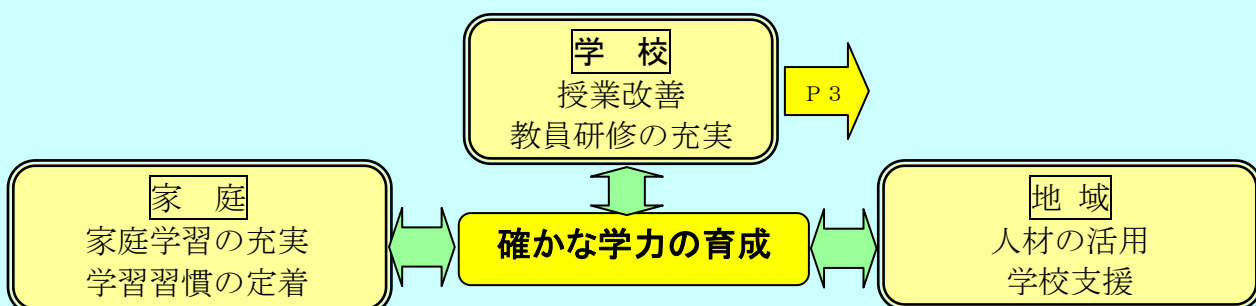
かながわの 学びづくりプラン

「かながわ学びづくりリーフレット」の発行も今年で4回目となりました。この間、一環して、「学校・家庭・地域で育てよう子どもたち」をテーマに掲げ、学校では、「わかる授業」「学び合いを中心とした授業」づくりに努めることを、家庭では、「早寝・早起き・朝ごはん」や「あいさつ」などの望ましい生活習慣を身に付けることを、地域では、学校へのボランティア活動で子どもたちの学びの支援を、といったことを働きかけてきました。

こうした取組みによって、子どもたち一人ひとりに「生きる力」を育成し、確かな学力を身に付け、自己有用感が育まれていくことにつながるものと考えます。

今年度は、学びづくり推進地域の各学校での成果を紹介し、今後の教育活動の参考としていただきたいと考えました。

かながわ学びづくり推進地域の成果



各推進地域では

三浦市

学校研究の充実、小中連携、家庭との連携などの研究を推進しています。校種を超えての指導案作りに取り組み、授業の工夫改善を図っています。

箱根町

「箱根ミニマム」とは

- 全ての学習を成立させる上で必須の基礎的な知識・技能
- 他の学習への波及効果が大きく期待されるもの

「心の教育」とは

- 学校版「おもてなしの心」を行動目標として実践する教育

平塚市

テーマ

「小・中連携を生かした授業改善への取組」

視点

- 9年間の子どもの育ちや学びを意識すること
- 小学校と中学校が合同研究に取り組むこと等、授業改善、校内研究の活性化と充実の研究を推進しています。

清川村

清川村で育つ子どもたちのために次の5つのことを提唱しています。

- 1 子ども自身ができること
- 2 家庭ができること
- 3 学校ができること
- 4 地域ができること
- 5 大人が協力してできること

大井町

道徳観の育成をめざすことなどを研究テーマに盛り込み、規範意識を育成し、人間関係を構築することからも授業改善に取り組んでいます。

授業改善を進めましょう！

一人ひとりが学ぶ喜び・学ぶ楽しさ
を実感できる
分かる授業の実践をしましょう



組織的な取組として
共通理解を図り、
授業研究を活性化しましょう

例えば

- 目標（身に付けさせたい力）の明確化と学習計画（見通し）の設定
- 指導方法の工夫
- 学習内容や子どもたちの実態に合った学習課題
- 適切な学習過程の設定 受信（聞く）→思考（考える）→発信（つなげる）
- 個に応じた学習形態の工夫（コの字型の机の配置・ペアやグループ学習）
- 学習活動の目的の明確化
- 学び合いができる学習活動の活性化
- 主体的に考えながら学習に取り組むための自己評価（振り返り）の活用

- ・考える時間や話し合いの時間をとっているか。
- ・話し合いが充実する手立てをとっているか。

学習過程の見えるワークシート等の工夫

言語活動の充実を図りましょう！

**「個」の学びを深める
言語活動を**

「個」が生きる学習環境

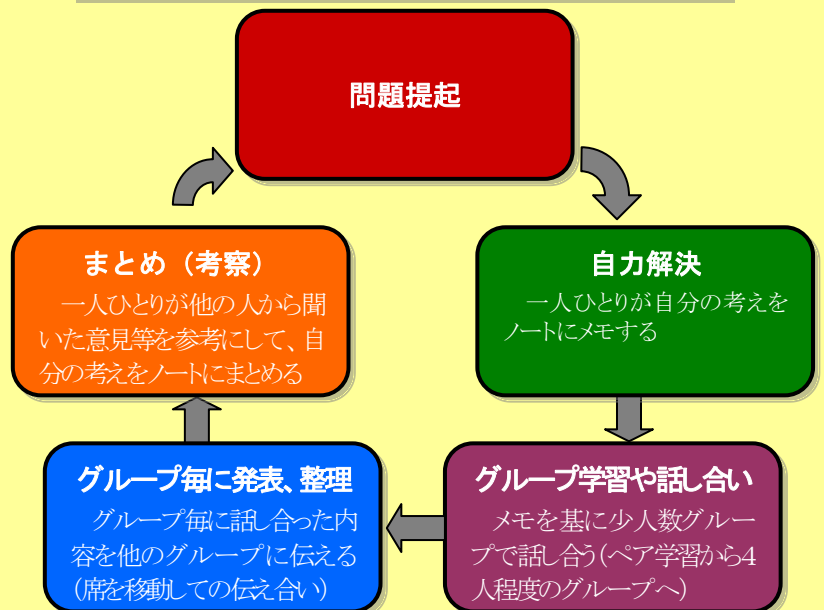
一人ひとりが認められる人間関係づくり（学級集団、教師集団）
一人ひとりの考えが生かされる授業づくり・学校づくり

学び合いを中心とした授業づくり

- ・一人ひとりに課題を解決する力を育てる。
- ・友だちに説明することで、自分の考えを確かなものにする。
- ・友だちの説明を聞くことで、自分の考えを深める。



学習活動に言語活動を取り入れた授業展開例



家庭と連携して学習習慣の定着を図りましょう！

～家庭学習を習慣化させましょう～

学習定着率が高い児童生徒の傾向

- 一日あたりの学習時間が長い。
- 家で自分で計画を立てて勉強する。
- 家で学校の授業の予習・復習をしている。
- テストで間違えた問題について、間違えたところを後で勉強している。

(全国学力・学習状況調査から)

○ 家庭学習の方法

授業と家庭での学習をつなぐための一つの手立てとして、学習予定表(学習カード)の利用が考えられます。

【項目の柱立て例】

- * 自分が学期に達成したいと思っている大きな目標
- * 大きな目標を達成するために小さな目標
- * その日に取り組む具体的な学習内容と要した時間
- * 成果の記入欄
- * 1週間の反省や計画以外に取り組んだ新しい課題が記入できる欄等

普段1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。(月～金)

小学校	1	2	3	4	5	6
神奈川県(公立)	18.1	13.7	24.4	23.5	15.0	5.2
全国(公立)	11.4	14.3	32.5	26.5	11.3	3.9

1:3時間以上 2:2時間以上,3時間より少ない 3:1時間以上,2時間より少ない 4:30分以上,1時間より少ない 5:30分より少ない 6:全くしない

中学校	1	2	3	4	5	6
神奈川県(公立)	15.6	29.7	24.8	12.6	8.9	8.3
全国(公立)	10.2	25.5	30.5	16.7	9.8	7.1

1:4時間以上 2:3時間以上,4時間より少ない 3:2時間以上,3時間より少ない 4:1時間以上,2時間より少ない 5:1時間より少ない 6:全くしない

(平成22年度 全国学力・学習状況調査 児童・生徒質問紙より)

学校と地域の連携を進めましょう！

地域から学校へ

* 学校行事や地域行事に参加しましょう。

・体育祭、運動会、文化祭など、子どもたちとの触れ合いが、子どもたちの健全な成長につながります。

* 学校が求めているボランティア活動

・学校が求めている地域の教育力を生かしましょう。

(例)「学習サポート」のボランティアでは、放課後や土・日曜日、長期休業中に学習支援を行っています。

学校から地域へ

* 学習指導要領では、「伝統や文化に関する教育の充実」「体験活動の充実」などが挙げられ、子どもたちの地域での活動がより活発に行われます。

・地域に伝わる伝統文化を通して伝承者の方々と交流し、そこで学習した成果を地域の方々に発信しています。

PTAや地域の人による学校の諸活動のボランティア

- ① よく行った
- ② どちらかといえば行った
- ③ あまり行っていない
- ④ 全く行っていない

平成21年度

小学校

選択肢	1	2	3	4
神奈川県 (%)	54.1	41.6	4.2	0.1
全国 (%)	54.8	41.5	3.4	0.2

中学校

1	2	3	4
54.5	39.0	5.7	0.2
46.4	46.1	6.5	0.7

平成22年度

選択肢	1	2	3	4
神奈川県 (%)	57.7	38.8	3.5	0.0
全国 (%)	56.9	40.0	2.9	0.1

1	2	3	4
51.8	46.7	1.5	0.0
47.5	46.0	5.9	0.5

神奈川県では、ボランティア等による授業サポートが熱心に行われています。

学習指導要領全面実施に当たって

平成 23 年度から小学校で、平成 24 年度から中学校で学習指導要領が全面実施されます。

「生きる力」の理念を共有しましょう

「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」が「生きる力」を支えます。

学校・家庭・地域の連携・協力について

子どもたちの「生きる力」を育むためには、学校・家庭・地域が相互に連携しつつ、社会全体で取り組むことが不可欠です。

新しい学習指導要領は

「生きる力」を育むという理念のもと、知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力などの育成を重視しています。

家庭で育む「生きる力」 ～家庭教育は全ての教育の出発点～

- ・基本的な生活習慣
- ・自立心の育成
- ・心身の調和のとれた発達
- ・「おはよう」「ただいま」「おやすみ」などのあいさつ
- ・学校での出来事について話し合う
- ・早寝、早起き、朝御飯
- ・お手伝いの習慣 など

地域などの連携により育む「生きる力」 ～地域ぐるみで取り組む環境づくり～

- ・学習の支援、読み聞かせ
- ・部活動の支援
- ・学校行事の支援
- ・環境整備（花壇の手入れ、図書室の整備など）
- ・安全パトロール など

学習評価で学習状況を把握しましょう

学習評価は、児童生徒にとって、自らの学習状況に気付き、その後の学習や発達・成長に生かされるものです。学校では、授業や指導方法の改善に生かされるものとなっています。家庭では、子どもの学習状況に合わせた学習習慣を身に付けさせていきましょう。

学校においては

学校として組織的・計画的に取り組み、校内研修会等を充実させるなど、妥当性・信頼性を確保することが大切です。

その際、指導と評価のより一層の推進を図るため、PDCA サイクル（右図）を確立することが重要です。

家庭においては

目標に準拠した評価についての理解を進め、子どもの学習状況の成果や課題を踏まえた家庭学習を促すなど、学習習慣の確立を支援しましょう。

目標に準拠した評価とは、学習指導要領にある各教科等の目標がどれだけ実現しているかを観点別に分析的にとらえる評価です。

